

見どころ案内

エビネ(春咲き) (ラン科)

林の中の風通しの良いところに咲く花で、古くから観賞用としても栽培されてきました。小さくて可憐な花を咲かせています。

早咲きのバラ (バラ科)

花が咲き始め、バラが見頃になってきています。バラ園の上段にあるツルバラのリージャンロードクライマーやシロバナタカネバラが満開です。また、バラ園からは宮島も眺望できますので、是非足を運んでみてください。

ヒメウツギ (ウツギ科)

名前の通りウツギよりも小型な木です。丈夫で管理しやすく、綺麗な白い花を咲かせるため、庭木として人気があります。

ミズレンブ (フトモモ科)

東南アジアで主に栽培されている熱帯果樹で、生で食べられています。こま状で鮮やかな赤い実がなり、味はリンゴに似ています。

トサシモツケ (バラ科)

最初に高知県で発見されたため、この名前がつけました。直径2~3cmの散房花序を出して、小さい花を咲かせます。隣に植えてあるコデマリと花はそっくりなので、一目では区別がつかないかも。

フジ (マメ科)

フジの花が満開になり、約40mの藤棚が紫色に包まれています。他のマメ科の植物と同様に蔓を使って椅子や鞆などの工芸品を作れます。

展示会のご案内

◇展示資料館 1F (4/6~5/6)

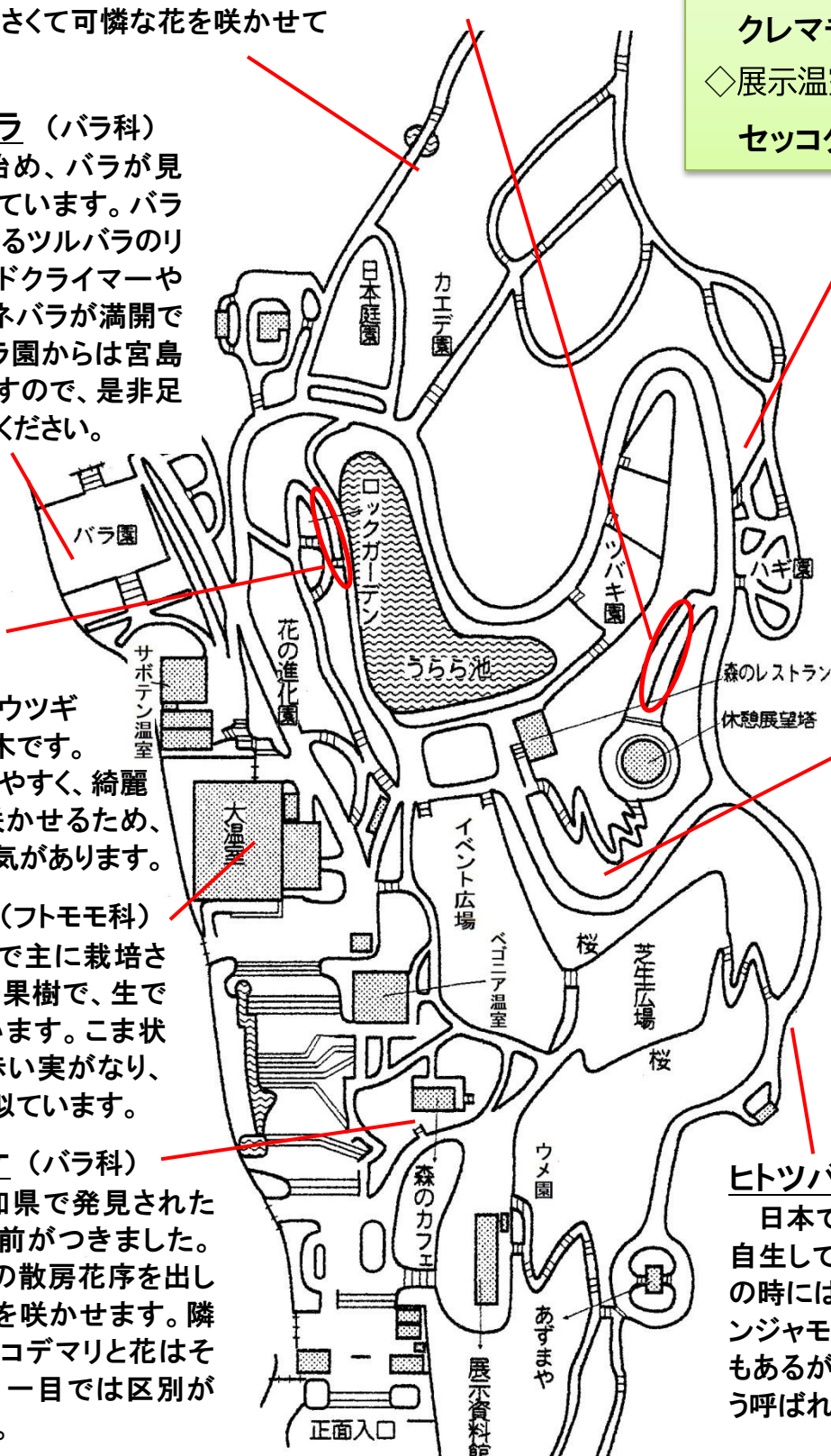
おし花美術作品展

◇屋外展示場 (4/27~5/6)

クレマチス展

◇展示温室 (5/4~5/9)

セッコク・長生蘭展



アイラトビカズラ

(マメ科)

日本では熊本県の相良と天草、長崎県の九十九島でしか確認されていない珍しい植物。暗紅紫色の大きな花が房咲きに咲いています。以前スイレン温室で咲いたことがあります。屋外に植栽した株が咲くのは今回が初めてです。

ヒラドツツジ (ツツジ科)

丈夫で刈込にも強い。ため、生垣や公園木によく使われている常緑低木で4~5月に色とりどりの花を咲かせます。主に長崎県平戸市が産地だったことからこの名前がつけました。斜面いっぱい咲き誇っていますので、見応えがあります。

ヒトツバタゴ (モクセイ科)

日本では対馬と木曾川流域にしか自生していない珍しい木。花が満開の時には雪のようで美しい。別名「ナンジャモンジャノキ」とも呼ばれることもあるが、ヒトツバタゴ以外の木もそう呼ばれることがあるので注意。